

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第79号

発行:2021年7月15日

発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺

副住職 天野英昭

〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号

Tel・fax(082)428-1360

第109回歎異抄輪読会

日 時 7月22日(木) 14:00~15:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です



盆会法座

日 時 8月1日(日) 9:00~15:00頃

朝席 9:00~11:30
昼席 13:00~15:00

ご講師 山下 瑞円 師(岡山県高梁市成羽町
淨福寺副住職)

秋彼岸法座

日 時 9月29日(水) 9:00~15:00頃

朝席 9:00~11:30
昼席 13:00~15:00

ご講師 牛尾 かおり 師(広島市安佐北区深川
明光寺坊守)

磯松天龍寺墓苑のお参りについて

お盆のお参り(合同参拝)

8月12日(木) 18:00~19:30



合同墓秋彼岸法要

9月23日(木) 15:00~16:00



※ 大変お忙しい時期とは存じますが、多数のご参拝を念じ申し上げます。

但し、天龍寺墓苑合同墓での参拝は、関係者の方のみとさせていただきます。

仏教壯年会定例会

7月31日(土)19:00~20:30

天龍寺庫裏にて

いくつになっても楽になりません・・・

もう少しで64歳を迎えるとしております。まだまだ若いと言われる方もあるかとは存じますが、度々申してきましたが、10代、20代、30代の前半に想像していた還暦後の人生ではありませんでした。

30代の半ばころに『3人の子供が、学校を卒業し、社会人になったら、どれだけ自分の人生が楽になるだろうか。』と想像したことが、何度かありました。近頃、本当に自分の都合のよい様に想像していたなど思うことです。

高飛車な言い方になりますが、「どのような人生を選択するにせよ、人生とは、娑婆の縁を去っていく瞬間まで、日々不安・恐怖・悩み・苦しみ、時に大きな悲しみに遇いながら、この一度の娑婆を生きていくことだと思うことです。」

勉強会で、度々ご指南いただきましたが、全ての人は「生死の苦海」を生きていく存在であると思うこともあります。

お釈迦様が説かれました四苦八苦の語源となっている「四苦・・・生老病死」の言葉のごとく、生きていれば、若かろうが、私のように還暦を過ぎた者でも、これから生きていく上の不安・恐怖・悩み・苦しみ等を抱えながら生きていかなくてはなりません。

また、私のように還暦を過ぎましたら、全ての人は自分の老いに向き合うことになります。一度の人生の中で、まったく病気にならずこの境涯を去ることも出来ません。さらに死は避けて通ることが出来ない存在であります。このことが、ある先生のお言葉をお借りしますと『人間存在の深みの真相への目覚め』となる機縁かもしれません。

以前、ある本の中で「死にに隨^{したが}うのである。」と書かれていたと記憶しております。悩み・不安・苦しみ等から逃げようとするから辛いのかとも考えたことがあります。

また、「煩惱を抱えて泣いていた者が、煩惱をたたえて慶^{よろこ}ぶ世界である。」と記してあったことです。このようなことを仏教では『転惡成善』と説かれています。

蓮の花も秋に金色に輝く稻穂も泥中から生まれてきます。泥は蓮・稻の母体であると思うことです。

先生のお言葉ではありませんが、「禍いや悩み・不安を滅ぼすのではなく、静かにこれらを動かぬ心で受けとめていく。すなわち動かない世界に心を樹て、それを背景にこの生死の苦海を生きていく」事が、少しでも出来ればと残りの人生を踏まえ、近頃考えることもあります。

最後に、幼き時より度々ご法座で『人生には三つの坂がある。一つは上り坂、二つには下り坂、三つにはまさか』とご指南いただいたことです。

残念ながら、一度の厳しい人生を生きていくと時に今申しました「まさか」に遇うこともあると12年のご縁を通して、度々ご指南いただきました。様々なことに苦悩し、失望し、時には深い絶望感に遇うこともある人生ですが、綺麗ごとになりますが、私なりに事実は事実として受け止め、南無阿弥陀仏と共に『生死の苦海』を歩めたらとも思うことです。